

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平 5 - 4 1 4 3 3

(43) 公開日 平成 5 年 (1993) 6 月 8 日

(51) Int. Cl. ⁵

A47B 67/02

A47K 1/02

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

8915-3K

7150-2D

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願平 3 - 3 8 4 9 0

(22) 出願日 平成 3 年 (1991) 5 月 2 8 日

(71) 出願人 0 0 0 0 0 5 8 3 2

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真 1 0 4 8 番地

(72) 考案者 渡辺 功一

大阪府門真市大字門真 1 0 4 8 番地松下電
工株式会社内

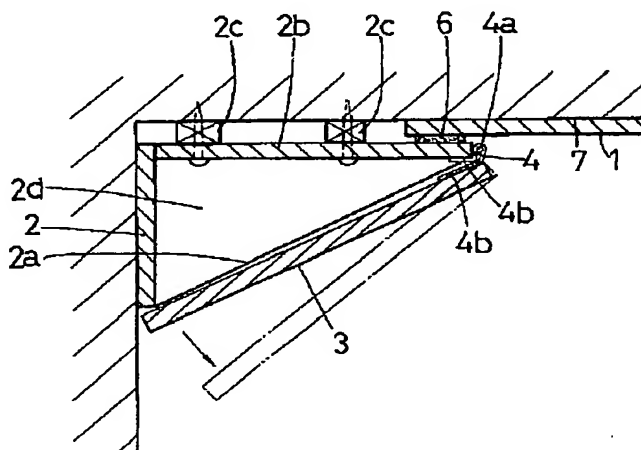
(74) 代理人 弁理士 川瀬 幹夫 (外 1 名)

(54) 【考案の名称】 ミラーキャビネット

(57) 【要約】

【目的】 蝶番の回動軸を背板の側端部の外方又はサイドミラーの側端部の外方に設けたので、サイドミラーを閉じた状態で隙間が発生しない。

【構成】 センターミラー 1 の両側方に、該センターミラー 1 側に傾斜した傾斜面に前面開口 2 a を形成している略三角柱状のサイドキャビネット本体 2、2 を配し、該サイドキャビネット本体 2 の前面開口を形成するセンターミラー 1 側の背板 2 b 端縁に、サイドキャビネット本体 2 の前面開口 2 a に配置したサイドミラー 3 の側端部を近接するとともに、蝶番 4 で回動自在に蝶着し、該蝶番 4 の回動軸 4 a を背板 2 b の側端部の外方に近接して設ける。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 センターミラーの側方に、該センターミラー側に傾斜した傾斜面に前面開口を形成している略三角柱状のサイドキャビネット本体を配し、該サイドキャビネット本体の前面開口を形成するセンターミラー側の背板端縁に、サイドキャビネット本体の前面開口に配置したサイドミラーの側端部を近接するとともに、蝶番で回動自在に蝶着し、該蝶番の回動軸を背板の側端部の外方又はサイドミラーの側端部の外方に設けて成るミラーキャビネット。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案のミラーキャビネットの一実施例を示す要部断面図である。

【図 2】 本考案のミラーキャビネットの一実施例を示す斜視図である。

【図 3】 本考案のミラーキャビネットを構成する蝶番の

2

一実施例を示す斜視図である。

【図 4】 従来例のミラーキャビネットを構成する蝶番の他の実施例を示す要部断面図である。

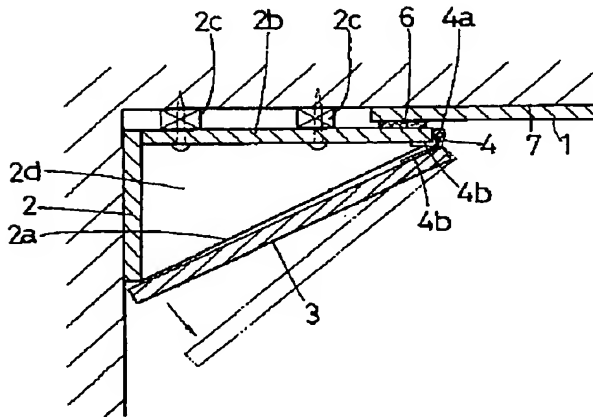
【図 5】 従来例のミラーキャビネットを示す斜視図である。

【図 6】 従来例のミラーキャビネットを示す要部断面図である。

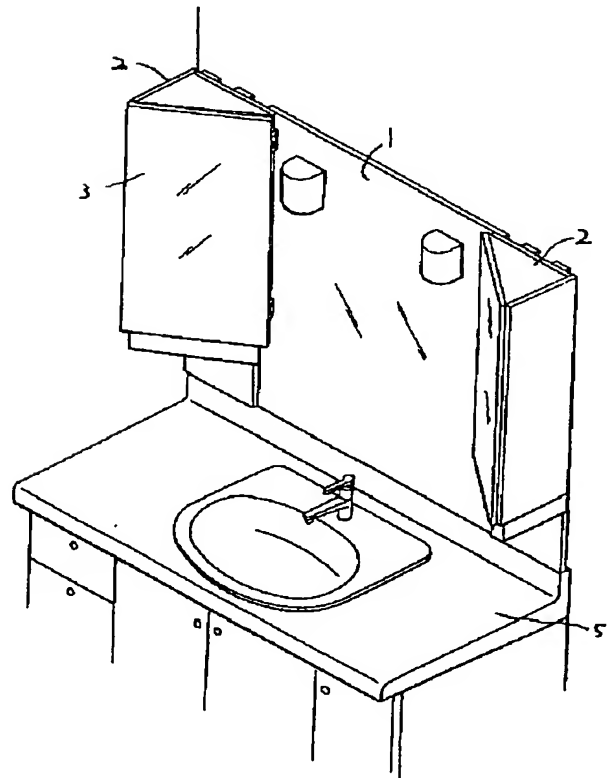
【符号の説明】

- 1 センターミラー
- 2 サイドキャビネット本体
- 2 a 前面開口
- 2 b 背板
- 3 サイドミラー
- 4 蝶番
- 4 a 回動軸

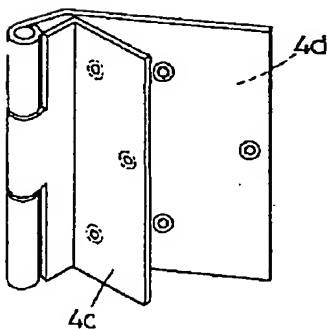
【図 1】



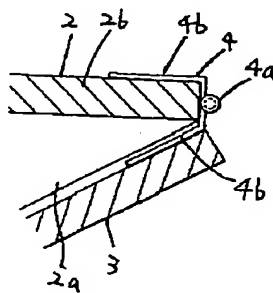
【図 2】



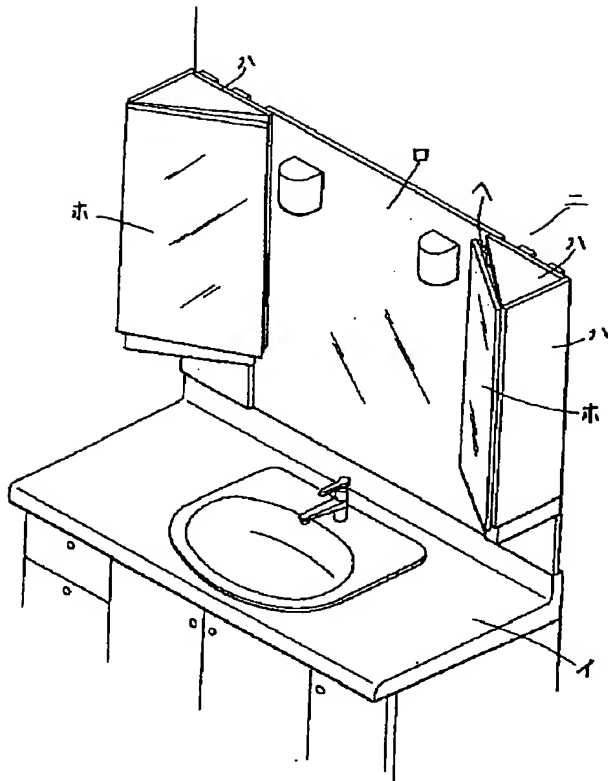
【図 3】



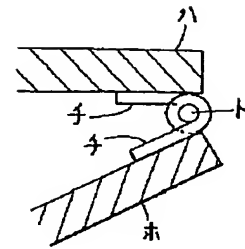
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【 考 案 の 詳 細 な 説 明 】

【 0 0 0 1 】

【 産 業 上 の 利 用 分 野 】

本 考 案 は、主として室内のコーナー部に配置されるものであり、通常洗面化粧台の後端上縁部に載設されて使用されるミラーキャビネットに関するものである。

【 0 0 0 2 】

【 従 来 の 技 術 】

従来から、この種のミラーキャビネットとしては、図 5 及び図 6 に示すように、洗面台（イ）の上縁部の後方に載設したセンターミラー（ロ）の両側端部に、該センターミラー（ロ）の前方に向かって斜め前方に傾斜した前面開口の略三角柱状のサイドキャビネット本体（ハ）を配置し、該センターミラー（ロ）の両側端部をサイドキャビネット本体（ハ）の裏面端部で押圧して、該センターミラー（ロ）を壁面（ニ）に固定し、サイドキャビネット本体（ハ）の傾斜する収納開口のセンターミラー（ロ）側の端縁部の表面とその近傍に位置する収納開口の前方に配したサイドミラー（ホ）の端縁部の裏面とを、このサイドキャビネット本体（ハ）のセンターミラー（ロ）側の端縁部の表面とサイドミラー（ホ）の端縁部の裏面との間に位置する蝶番（ヘ）の回動軸（ト）を中心として回動する両固定片（チ）、（チ）をそれぞれ接触させて固定して接続するものが汎く知られていた。

【 0 0 0 3 】

【 考 案 が 解 決 し よ う と す る 課 題 】

しかしながら、上記のような従来技術にあつては、サイドキャビネット本体（ハ）のセンターミラー（ロ）側の端縁部の表面とサイドミラー（ホ）の端縁部の裏面との間に蝶番（ヘ）の回動軸（ト）が位置しているために、閉じた状態で蝶番（ヘ）側のサイドキャビネット本体（ハ）とサイドミラー（ホ）との隙間が発生し、美観を損なうという問題があった。

【 0 0 0 4 】

本 考 案 は、係る上記の問題を解決するために考案されたものである。すなわち

、その課題は、サイドミラーを閉じた状態で、隙間が発生しないミラーキャビネットを提供することである。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

本考案のミラーキャビネットは、上述した問題を解決するものであり、センターミラーの側方に、該センターミラー側に傾斜した傾斜面に前面開口を形成している略三角柱状のサイドキャビネット本体を配し、該サイドキャビネット本体の前面開口を形成するセンターミラー側の背板端縁に、サイドキャビネット本体の前面開口に配置したサイドミラーの側端部を近接するとともに、蝶番で回動自在に蝶着し、該蝶番の回動軸を背板の側端部の外方又はサイドミラーの側端部の外方に設けて成るものである。

【 0 0 0 6 】

【作用】

本考案のミラーキャビネットは、上記した構成をしており、サイドキャビネット本体の前面開口を構成するセンターミラー側の背板端縁に、サイドキャビネット本体の前面開口に配置したサイドミラーの側端部を近接して、蝶番で回動自在に蝶着し、該蝶番の回動軸が背板の側端部の外方又はサイドミラーの側端部の外方に設けられ隙間を発生させないのである。

【 0 0 0 7 】

【実施例】

以下、本考案を図面に示した実施例に基づいて詳細に説明する。

【 0 0 0 8 】

図 1 乃至図 3 に示すミラーキャビネットは、本考案の一実施例であり、センターミラー 1 の両側方に、該センターミラー 1 側に傾斜した傾斜面に前面開口 2 a を形成している略三角柱状のサイドキャビネット本体 2、2 を配し、該サイドキャビネット本体 2 の前面開口を形成するセンターミラー 1 側の背板 2 b 端縁に、サイドキャビネット本体 2 の前面開口 2 a に配置したサイドミラー 3 の側端部を近接するとともに、蝶番 4 で回動自在に蝶着し、該蝶番 4 の回動軸 4 a を背板 2 b の側端部の外方に近接して設けて成るものである。

【 0 0 0 9 】

ミラーキャビネットは、通常、室内のコーナー部に設置された洗面台 5 の後部上端縁に載設されたり、又は図示していないが、洗面台の上方の壁面に固定されたりして使用されるものである。

【 0 0 1 0 】

ミラーキャビネットは、センターミラー 1 と、その左右に位置するサイドキャビネット本体 2、2 と、該サイドキャビネット本体 2 の前面開口 2 a を塞ぐように配した回動自在なサイドミラー 3 と、該サイドミラー 3 とサイドキャビネット本体 2 とを接続する蝶番 4 と、から構成されている。

【 0 0 1 1 】

センターミラー 1 は、ガラス製の平板状の平面矩形をしたものであって、該センターミラー 1 の両側端の表面にサイドキャビネット本体 2 の背板 2 b のサイドミラー 3 に近接する端部の裏面を位置させて、該サイドキャビネット本体 2 でシール材 6 を介してセンターミラー 1 を壁面 7 側に押圧し、該センターミラー 1 がサイドキャビネット本体 2 で保持されるようになっている。

【 0 0 1 2 】

サイドキャビネット本体 2 の背板 2 b の裏面中程には、断面矩形の長尺な支持棒 2 c、2 c が上下方向に向けて設けられ、該支持棒 2 c、2 c を壁面 7 に接触させてサイドキャビネット本体 2 の収納部 2 d 側からねじ 2 e、2 e を壁面 7 に螺着し、サイドキャビネット本体 2 を壁面 7 に固定できるようになっている。尚、サイドキャビネット本体 2 の支持棒 2 c の高さ寸法は、センターミラー 1 の厚さ寸法と、該センターミラー 1 にシール材 6 を重ねた状態で、センターミラー 1 を壁面 7 に接触させるとともにシール材 6 をサイドキャビネット本体 2 の背板 2 b の裏面で壁面 7 側に押圧して、センターミラー 1 を保持出来るように設定されている。

【 0 0 1 3 】

又、サイドキャビネット本体 2 は、略三角柱状のものであって、センターミラー 1 前方に向かって傾斜する傾斜面には前面開口 2 a が形成されており、その内方には、収納部 2 d が形成されている。そして、該サイドキャビネット本体 2 の

前面開口2 aを形成しているセンターミラー1側の背板2 bの側端部に、サイドミラー3の側端部を近接させ、蝶番4、4でサイドキャビネット本体2とサイドミラー3とが連結されている。

【 0 0 1 4 】

蝶番4は、金属製のものであって、回動軸4 aと固定片4 b、4 bとから構成されている。該蝶番4は、回動軸4 aを中心として回動する平板状の両固定片4 b、4 bが設けられている。該固定片4 b、4 bは、回動軸4 aの外面の反対方向からそれぞれ接線上に同じ方向に向かって延びており、その所定の位置からは、一方の固定片4 bは直角に、他方の固定片4 bは一方の固定片4 bと同じ向きで、しかもその角度は、一方の固定片4 bの直角に屈曲した先方の部分をサイドキャビネット本体2の背板2 bの側端縁の前面に接触させた状態で、サイドキャビネット本体2の傾斜面と略同一なものとなっている。そして、この一方の固定片4 bの屈曲部から外方へ延びた部分の外面4 cをサイドキャビネット本体2のセンターミラー1側の背板2 bの端縁の前面に接触させるとともに、この一方の固定片4 bの外面4 cとサイドキャビネット本体2のセンターミラー1側の背板2 bの側端縁の前面角部をお互い一致させて固定し、他方の固定片4 bの屈曲部から外方へ延びた部分の外面4 dにサイドキャビネット本体2の前面開口2 aに配置したサイドミラー3の側端部の後面を接触させて、サイドキャビネット本体2の前面開口2 aにサイドミラー3が回動自在に配置されている。

【 0 0 1 5 】

尚、このようにサイドキャビネット本体2のセンターミラー1側の背板2 bの端縁の前面とサイドミラー3の側端部の後面とを回動軸4 aを背板2 bの側端部の外方に近接した蝶番4の固定片4 b、4 bで固定してあるので、サイドミラー3をサイドキャビネット本体2の前面開口2 aに近接させて閉じた状態では、サイドキャビネット本体2のセンターミラー1側の背板2 bの端縁の前面とサイドミラー3の側端部の後面との隙間は、ほぼ蝶番4の固定片4 bの2枚の厚さ寸法しか発生しないので、美観を損なうことがない。

【 0 0 1 6 】

尚、上記実施例においては、サイドキャビネット本体2のセンターミラー1側

の背板 2 b の側端縁の前面とサイドミラー 3 の側端部の後面とを回動軸 4 a を背板 2 b の側端部の外方に近接した蝶番 4 の固定片 4 b , 4 b で固定したが、図 4 に示すようにサイドキャビネット本体 2 のセンターミラー 1 側の背板 2 b の端縁の裏面とサイドミラー 3 の側端部の後面とを回動軸 4 a を背板 2 b 端縁の外方に近接した蝶番 4 の固定片 4 b , 4 b で固定しても良い。この蝶番 4 の固定片 4 b , 4 b は、回動軸 4 a の外面の一端から、その外面と接するようにお互い反対方向に向かって突出しており、略く字状の一方の固定片 4 b はサイドキャビネット本体 2 のセンターミラー 1 側の背板 2 b の側端縁の端面と裏面とに接し、略く字状の他方の固定片 4 b は、サイドキャビネット本体 2 の背板 2 b の側端縁の端面とサイドミラー 3 の側端部の後面とに接するようになっている。したがって、サイドミラー 3 をサイドキャビネット本体 2 の前面開口 2 a に近接させて閉じた状態では、サイドキャビネット本体 2 のセンターミラー 1 側の背板 2 b の側端縁の前面とサイドミラー 3 の側端部の後面との隙間は、ほぼ蝶番 4 の固定片 4 b の 1 枚の厚さ寸法しか発生しないので、美観を損なうということがない。

【 0 0 1 7 】

【 考 案 の 効 果 】

本考案のミラーキャビネットは、上記したような構成をしており、センターミラーの側方に、該センターミラー側に傾斜した傾斜面に前面開口を形成している略三角柱状のサイドキャビネット本体を配し、該サイドキャビネット本体の前面開口を形成するセンターミラー側の背板端縁に、サイドキャビネット本体の前面開口に配置したサイドミラーの側端部を近接するとともに、蝶番で回動自在に蝶着し、該蝶番の回動軸を背板の側端部の外方又はサイドミラーの側端部の外方に設けたので、サイドミラーをサイドキャビネット本体の前面開口に近接させた状態では、サイドキャビネット本体のセンターミラー側の背板端縁とサイドミラーの側端部とには隙間がほとんど発生しないので、美観を損なうことがないという効果がある。